

～東北再生可能エネルギー利活用大賞受賞～

「秋田産電力」を支える人々①



「すべての木材がバランスよく使われることが重要」とする堀川氏

素材生産事業者（兼林業者）
堀川林業代表取締役会長

堀川 義美 氏

ユナイテッドリニューアブルエナジーが秋田市で行うバイオマス発電事業が、東北経済産業局の16年度「東北再生可能エネルギー利活用大賞」を受賞した。秋田県内全域の素材生産事業者（兼林業者）から燃料となる木材チップの供給を受け、福祉施設等も巻き込んだ「秋田産電力」が高く評価された。この取り組みには、県内の林業者など事業を支える周辺の人々の存在が不可欠だ。

県内最大手の林業者である堀川林業（仙北市）は、現在事業に関わる7林業者の中でもいち早く参加を決めた。堀川義美会

間伐材等活用で秋田の林業活性化へ



事業参加に際しては、木材をチップ化する工場を整備

長は、「4年程前に当社の間伐材や林地残材などをバイオマス発電に活用したいという提案を受け、これまで売れなかったものが使えるのであればと興味を持った。その後県や森林組合も交えて検討を重ね、県からの強い要請もあり秋田の林業活性化につながるかと参加を決めた」と振り返る。

事業参加に際しては5億円弱の設備投資を行い、木材をチップ化する工場を整備した。「売上年間数億円の企業が5億円弱の投資を行うのは大きな決断だ

事業参加に際しては、木材をチップ化する工場を整備した。ただ、これまで林地に放置していたC材、D材が活用できるのであればと、九州など他地域のバイオマス発電事業の状況も視察し最終的に行けると判断した。国から約4割の助成を受けることができたのも大きかった」とする。

昨年7月に発電事業がスタートしたが現状については、「当社も9人増員するなど雇用も拡大しており、確実に良い効果が出てきている。ただ、まだまだ手探りのことが多く、本当にどのような成果があるかは数年取り組んでみなければわからないだろう」と話す。

秋田には豊富な森林資源がありながら、質の良いA材、B材の需要の低さから十分に収穫できない状況だ。「やはり林業全体を本当に活性化させるには、A材、B材の需要が増え、すべての木材がバランスよく使われることが不可欠」と、県や国がそのための施策を進めて行く必要性も訴える。